

「在外漆工品の修理の推進」



松 本 達 弥

文化庁 2026 8.26

漆工品修理の経緯と現状

日本から輸出された漆工品は世界中の美術館・博物館に所蔵されされているが、修理やメンテナンスは其々の手法で行われてきた。

基本的には原材料である漆を使った修理は行われていないのが現状である。

現在、海外での漆工品修理の指導は、個人的な活動にてワークショップや研修セミナーを開催しているのみである。

在外日本古美術品保存修復協力事業 (東京文化財研究所主催)

日本から海外に輸出された漆工品を、日本に輸送して修理してお戻しする事業が、1998年(平成10年)に始まる。

東京文化財研究所の修理室にて、毎年、3～4点修理して戻す。作品の損傷状態により1年～3年の修理期間を要したものもあった。

在外日本古美術品保存修復協力事業 (東京文化財研究所主催)



「山水人物蒔絵箆笥」
スペイン国立装飾美術館
(2005年～2007年)





V&A美術館(2008年)



アシュモリアン美術館(2008年)



アムステルダム国立美術館(2010年)

在外漆工品保存修復 専門家海外派遣事業

ドイツ・ケルン東洋美術館内修理室にて

(2006年～2018年まで開催)

- 2006年～2010年 北村繁 松本達弥
(漆工品修復、ワークショップの開催 2ヶ月ほど滞在)
- 2011年～2016年 山下好彦
(ワークショップのみ開催10日ほど滞在)
- 2017年～2018年 大西智洋
(ワークショップのみ開催10日ほど滞在)

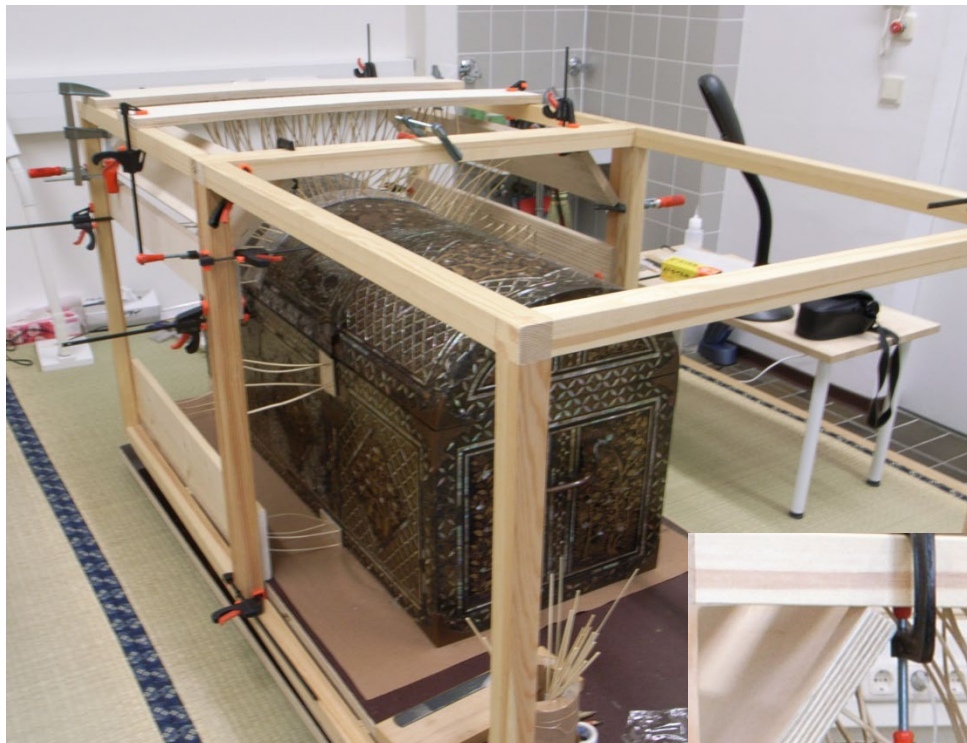
ドイツ・ケルン
東洋美術館内の修理室



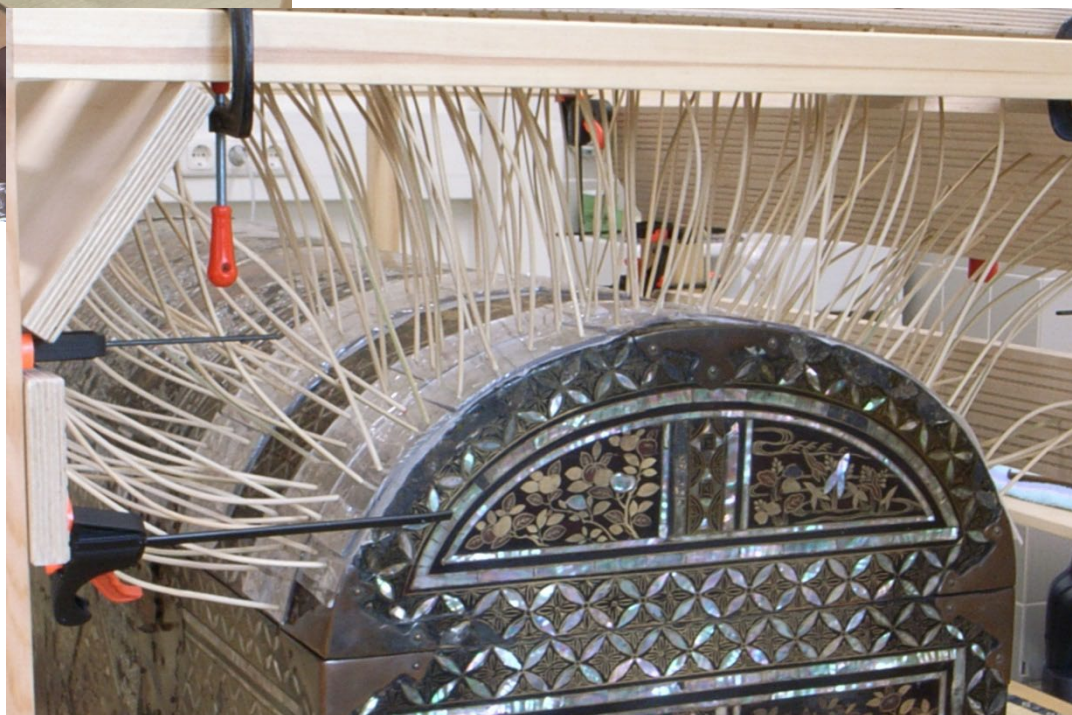
クリーニング
後補塗料の除去



2006



剥離螺鈿の芯張り圧着



現地で工夫して木
杵を製作



漆工の基礎講座



2008

漆を使った修理体験

ケルンでの在外漆工品修復は、5か年(2011年)で事業から離れる。

COVID-19により、海外への渡航が制限された。その間、バルセロナの漆工修理者や制作者にオンライン講義を開催。

欧米での活動は、個人的な活動になってしまった。



レクチャー デモンストレーション



ポーランド・クラクフ

2018



パリ・ギメ美術館

道具・材料の説明



2018

ヴィクトリア & アルバート博物館 (V&A)



2025

日本の支援で漆風呂を設営



Getty保存研究所 (GCI)

J.ポール・ゲティ美術館 (ロサンゼルス) (2025年3月)





URUSHI ミーティング

世界の漆工修理者
11名参加





修理技術の意見交換

分析機材が整った 修理室





修理された展示作品

世界各国からの
参加者



「修理 理念の共有」

海外では、漆は可逆性がないということで、漆を使った修理を行わない考えがある。

我々日本国内での修理に対する理念や技術・材料を理解してもらい、漆工品を後世に継承していくことの共有が重要である。

先ずは、我々が行っている修理理念を理解してもらい指導者的立場の人材の育成を目指す必要がある。

「海外での修理指導者の育成プロジェクト」

<企画メンバー>

- Stephanie Auffret Getty 保存研究所 (GCI)
- Dana Melchar Rijks Museum
- 北村 繁 選定保存技術保持者
- 松本 達弥 選定保存技術保持者
- 室瀬 智弥 室瀬漆文化財団

「プロジェクトの基本構想」

本事業は5年間継続的なプロジェクトとして実施し、年2回の研修会を開催する。各回5～7名ほどの将来修理プロジェクトを担う人材を育成することを目標とする。

将来的に各地域で指導的役割を担える中堅層の育成を優先する。美術館等の所属者に限定するか、フリーランスの修理技術者も含めるかは検討が必要。

毎年2回の研修のうち、日本での開催を1回、アムステルダム又はロサンゼルスでの開催を1回とする。

若手世代の接点を増やすため、プロジェクトアシスタントとして、国内外の若手を参画させて、同時に育成が可能になることが理想である。

プロジェクトの期間中、定期的にオンラインミーティングを開催して、サポートすることも重要である。

欧米との修理技術・材料の共有も重要。

「これからの取り組み」

- ・日本国内で公的に研修ができる施設や修理室が必要
- ・プロジェクトを継続するには安定した資金面の確保
- ・実践的な研修を行うために、教材として用いる修理品の確保
- ・研修に参画する中堅的な修理者の選定
- ・プロジェクトアシスタントとして参画する若手の選出

漆工文化財は日本国及び世界の宝である！

この宝を後世に継承するには、修理とメンテナンスを繰り返し行う必要がある！

そして、最も重要なことは人材育成を最優先する必要がある！